

会議議事録

第5回義務教育学校整備検討委員会

日付	令和6年12月17日（火）
時刻	18時00分～20時30分
場所	厚沢部町図書館 視聴覚室

出席者等（敬称略）

委員長	香川 直樹（厚沢部中学校学校運営協議会長）
委員	西山 訓央（保護者代表）
	中野 健二（北海道建設技術センター職員）
	山田 克哉（館小学校学校運営協議会会長）
	木村 千津（保健福祉課長）
	中井 文夫（文化協会会長、子育て支援アドバイザー）
	川口 豊（鶯小学校学校運営協議会会長）
	久慈 学（厚沢部小学校長）
	玉置 英樹（町校長会長、町教研会長）
	宮嶋 謙次（こども園保護者代表）
	八重樫明美（鶯小学校保護者代表）
	木口 孝志（政策推進課主幹）
	尾山 浩崇（厚沢部小学校学校運営協議会会長）
	太田 滋子（社会教育委員副委員長、人権擁護委員）
	橋端 純恵（保健福祉課主幹）

事務局

高野 政人（教育長）
二宮 和之（事務局長）
太田 聡子（教育委員会事務局主幹）
石井 淳平（教育委員会事務局主幹）
山田 蒼良（学校教育係）

委員欠席者（敬称略）

安田 光（総務財政課長）
高田 一弥（厚沢部商工会会長）
近藤 良信（社会教育委員長、民生児童委員）
加藤 一義（事務局・指導主事）

支援業務委託先

平井聡一郎（未来教育デザイン）

議事内容

1. 開会

事務局長より本日のスケジュールについて説明があり、委員会が開会されました。

2. グループワーク（基本方針・建設候補地について）

2.1 基本方針について

(1) 事務局説明

「基本方針」に基づき、学校設立の目的、現状の児童生徒数、教育目標、施設計画等が説明されました。

ア 児童生徒数は今後減少する見込み（令和20年には50人前後）。

イ 学びの連続性や地域と連携する教育を推進する必要性が示された。

(2) グループワークでの意見

ア 中1ギャップの解消は重要だが、人間関係の区切りを設けることで成長が促進される場合もある。

イ 「初期段階」という表現に違和感があり、「基礎学力の習得に注力」とする案が出た。

ウ 「自己表現力」という言葉を「自己効力感」などより親しみやすい表現に変更すべき。

エ 地域との連携において「町内外・国内外とのつながり」を強調すべき。

オ 職場体験を中学段階に限定せず、小学校低学年からの系統的实施が望ましい。

カ 施設方針で太陽光発電や緑化など、具体例を柔軟な表現に変更すべき。

キ 災害リスクや利便性を考慮した設計が必要。

ク ICT活用の効果が指摘され、教育内容への反映が求められた。

ケ 基本理念に「知・徳・体」を位置づけるべきか再考が必要。

コ 授業時間の設定について検討が必要。

サ ネガティブな表現から希望を持てる表現へ変更すべき。

2.2 建設候補地について

(1) 事務局説明

候補地選定基準として以下の5点が示された：

ア 利便性、土地の所有状況、安全性、地域との近接性、拡張性・将来性。

イ 候補地として6カ所が提案された。

(2) 支援業務委託先平井氏から先進事例（なんもく学園校舎）について説明があった。

(3) グループワークでの意見

ア 厚沢部中学校現敷地

メリット：既存施設の活用が可能。公共施設（総体、図書館、病院、消防、役場、あゆみ、プール、給食センター）に近く利便性が高い。

デメリット：洪水リスクがあるため、かさ上げや建て方に工夫が必要。

イ 厚沢部小学校現敷地

メリット：公共施設（総体、図書館、病院、消防、あゆみ、プール、給食センター）に近く利便性が高い。

デメリット：敷地が狭い。

ウ 総合グラウンド周辺

メリット：国道沿いにある。レク森付近は自然が豊か。

デメリット：畑内川が氾濫する。整地を考えると活用が難しい。レク森側も建設は難しい。

エ 赤沼地区（こども園周辺）

メリット：こども園との連携可能性がある。洪水の危険はない。

デメリット：敷地が狭い。グラウンドの設置が困難。

オ 鶉小学校跡地

メリット：敷地が広く交通アクセスが良い。

デメリット：下地区からの移動が大変。インフラ整備が困難。公共施設とのつながりが作りにくく、不便さがあり、現実的ではない。

カ 館小学校跡地

メリット：敷地が広い。

デメリット：グラウンド裏急傾斜地が土砂崩れリスクがある。公共施設とのつながりが作りにくく、不便さがあり、現実的ではない。

キ 工事中の校舎利用案

小学校への一時移転や段階的工事など、工事中の運営方法に関する意見が挙げられた。

ク 安全対策

洪水対策としてかさ上げや避難設備の整備が必要。

2.3 次年度計画について

ア 検討委員会：10 回程度の開催を予定。

イ 講演・研修：町民向け講演 1 回、教職員研修 3 回、授業研修 9 回を実施。

ウ 先進地視察：道内の先進的な義務教育学校を 2～3 校程度視察予定。

3. 閉会

次回の検討委員会において、基本方針の決定を予定。

配布資料

資料 1：義務教育学校整備に関する基本方針

資料 2：建設候補地案

資料 3：児童生徒数の推計

次回の会議 令和 7 年 1 月 17 日（金）18 時 00 分 図書館視聴覚室